

# 保険設計の基礎 入門編

らしいふらん作成工房

CFP 齊木正夫

# リスクの種類

収入の減少/途絶				老後	追加費用			損害 補償
死亡		就業不能			医療費用			
病気	ケガ	病気	ケガ		病気	ケガ	介護	
必要額				↓	見直しの順序			
公的保障								
保険商品								

死 亡	支出の発生	保険金額	葬式費用としては、300万円～500万円程度確保されていることが望ましい。	
		保険期間	保険を活用される場合は、生涯にわたって保障を継続することが出来る様々な終身保険の中からご自身にとって相応しい保険を選択しましょう。	
		保険料負担	保険料の払込期間が短ければ短いほど月々の負担は大きくなりますが貯蓄性は高くなります。老後に保険料負担を残されたくない方や貯蓄性を高めたい方は、短期払いが効果的です。また月払いよりも年払いのほうが総払込保険料は割安になります。	

# 収入の減少

死亡	収入の減少	保険金額	<p>遺族の方の生活費、住宅費、教育費等を合計した必要な金額から、国や会社の保障及びその他を差し引いた金額が個人で加入すべき保険金額の目安となります。また必要な金額は原則、年が経つにつれて減少していきますので、保険金額も毎年減額されたほうが合理的です。</p>
		保険期間	<p>死亡保障は収入の補填です。収入見込みがある60歳または65歳まで継続できれば問題ないでしょう。</p>
		保険料負担	<p>保険料の上がることが無いように保障を設計することが重要です。少子高齢化に伴い、これからの時代は「死亡リスク」よりも「生存リスク」の方が高まっています。生きることへのリスクに対する準備が益々重要になってきています。</p>

The diagram illustrates factors that lead to a decrease in the required insurance amount over time. It shows three boxes: '子ども独立' (Child independence), '必要保障額の推移' (Shift in necessary insurance amount), and '配偶者老齢年金受給開始' (Spouse's old-age pension receipt). Arrows from these boxes point to a larger box labeled '過剰な保険金額' (Excess insurance amount), indicating that these events reduce the needed coverage, leaving the original policy amount as an excess.

The graph plots '保険金額' (Insurance amount) on the y-axis against time on the x-axis. A red line represents the scenario where the insurance amount is not reviewed after joining, showing a steady increase. A green line represents the scenario where the insurance amount is reviewed annually, showing a much lower and more stable level. A 10-year period is marked on the x-axis. A box at the bottom right states '約2.5倍の差' (Approximately 2.5 times the difference), highlighting the significant cost savings from regular reviews.

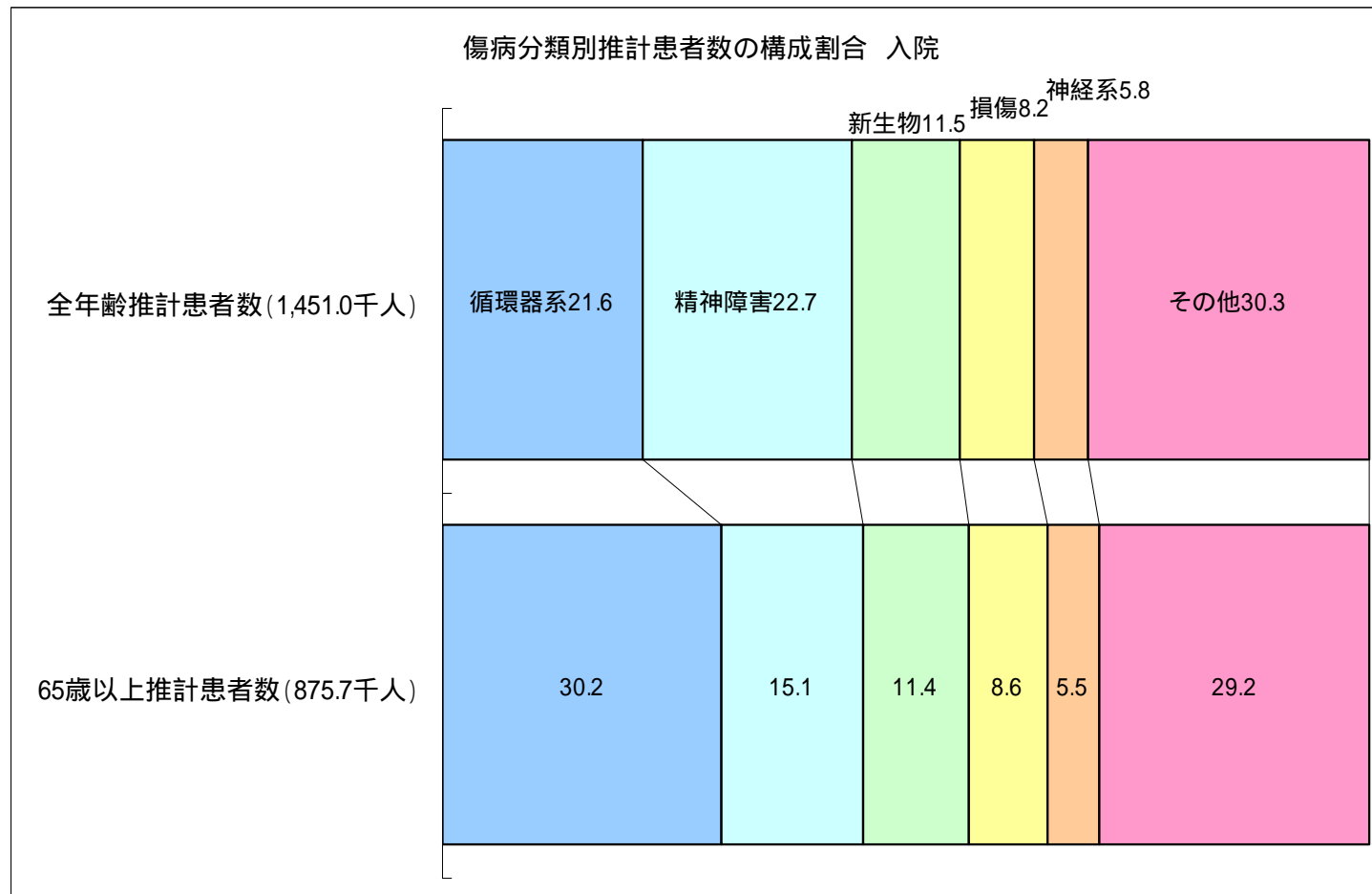
# 病気・ケガ

- 保険金額・・・日額？ 成人病は？
- 保険期間・・・老後生活時期を踏まえて
- 保険料負担・・・原則、収入があるうちに
- 保険開始日・・・1泊2日って必要？
- 入院日数・・・98%が120以内ってほんとうですか？

# 傷病分類別推計患者数の構成割合 ～ 入院

調査時期：平成14年

入院の「全年齢」では「循環器系」「精神障害」「新生物」を合わせると5割を超えている。65歳以上では「循環器系」の疾患による入院が増えている



# 保険料の比較

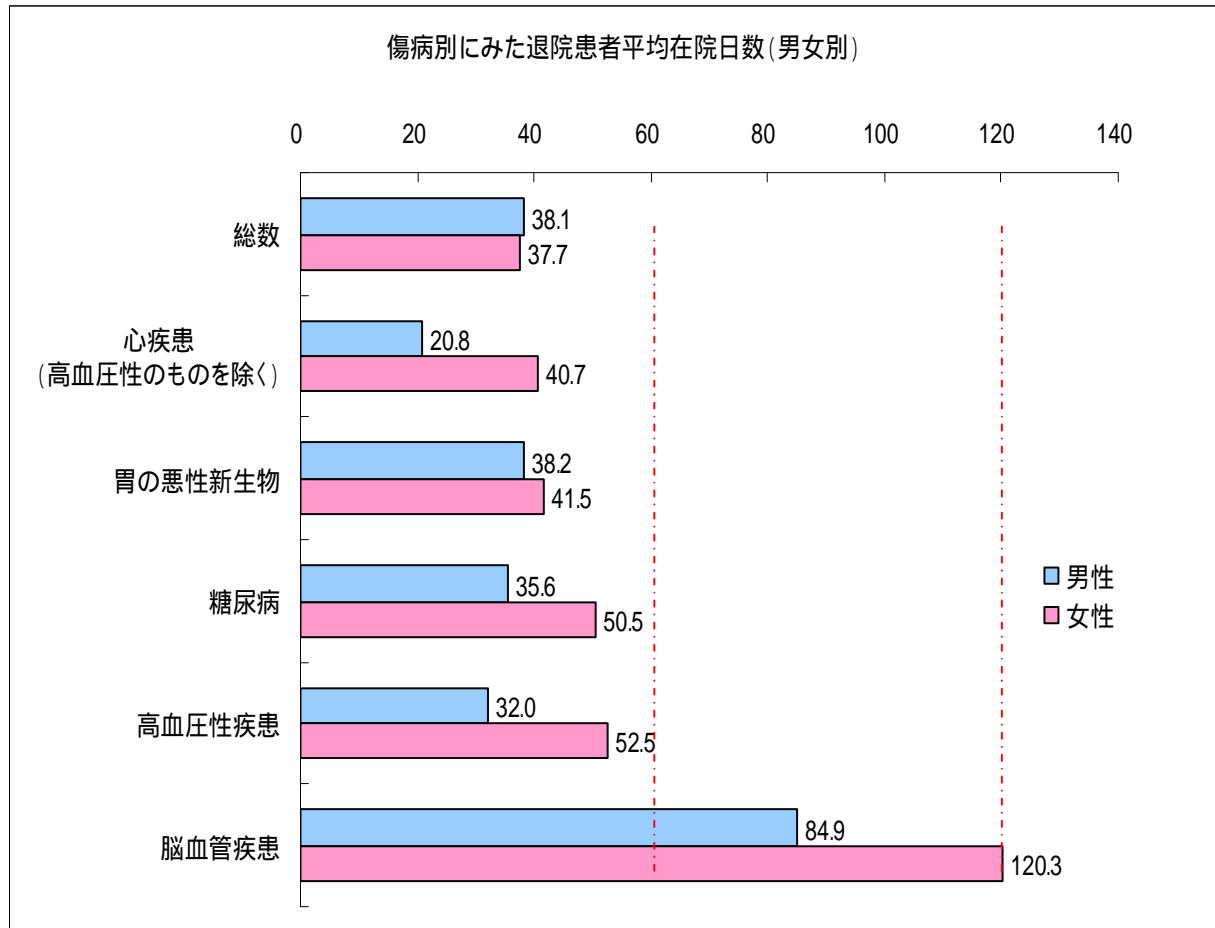
終身医療(60日型): 保険期間: 終身・月払い・入院給付金日額1万円・手術給付金特約付

会社名	O	A	S	A B
商品名				
給付内容特記	120・60日 払込中解約返戻金0	解約返戻金0	解約返戻金0 死亡給付金0倍	解約返戻金0
男性 20	2,560	3,000	3,780	2,920
30	3,380	3,610	4,040	3,500
40	4,730	4,480	5,230	4,390
50	6,850	5,940	7,210	5,890
女性 20	2,780	3,000	4,010	2,920
30	3,370	3,610	4,030	3,500
40	2,001,600	2,150,400	2,280,000	2,107,200
50	5,860	5,940	6,280	5,890

# 傷病別にみた退院患者平均在院日数(男女別)

調査時期：平成14年

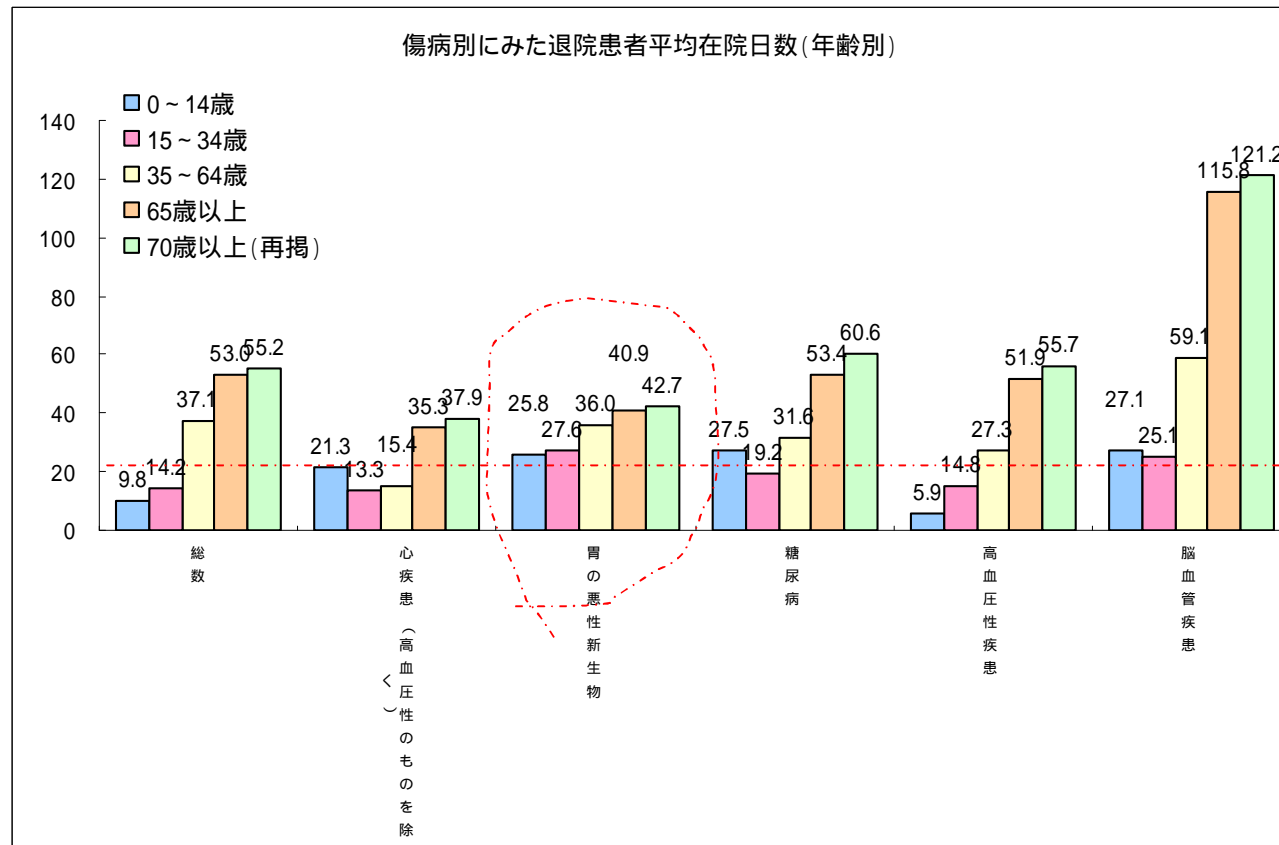
総数では男女ともほぼ同じ長さだが、「脳血管疾患」「高血圧性疾患」などの生活習慣病では、女性の入院日数の長さが目立っている。



# 傷病別にみた退院患者平均在院日数(年齢別)

調査時期：平成14年

おおむね年齢が高くなるほど入院日数が長くなる傾向がある。とくに「脳血管疾患」「高血圧性疾患」「糖尿病」でその傾向が顕著である。



		考え方	参考資料
就業不能	保険金額	保障を考える際、最もリスクが高いのが就業不能です。収入が途絶えるばかりか、死亡リスクと異なり介護費用等支出金額は増える可能性があります。配偶者の方に収入がある場合は、一定の割合をカバーすることが可能ですが、介護等で配偶者の方が働けなくなる可能性もありますので、ご注意下さい。	<p>病气やケガで長期に入院しなければならなくなったら退院はしたけれど療養が必要だと言われたら働けない状態になってしまったら、収入は？</p> <p>100%</p> <p>50%</p> <p>収入(給与+賞与)</p> <p>有給休暇 病气休暇など)</p> <p>会社の休業制度</p> <p>健康保険 傷病手当金</p> <p>標準報酬月額額の60%</p> <p>会社員のみ</p> <p>1年6ヶ月</p> <p>所得補償保険</p> <p>傷害厚生年金 1~3級</p> <p>傷害基礎年金 1~2級</p>
	保険期間	収入が得られる予定時期定年時期まで継続できる保障が望ましいでしょう。	
	保険給付期間	就業不能状態になってしまった場合、最初の時期は健康保険の傷病手当金や現預金等がありますとなんとかやりくりできますが、2年以上の長期になってしまった場合は大変です。したがって、2年、3年の短期の保障ではなく、60歳まで給付が継続する長期の保障を確保しましょう。	

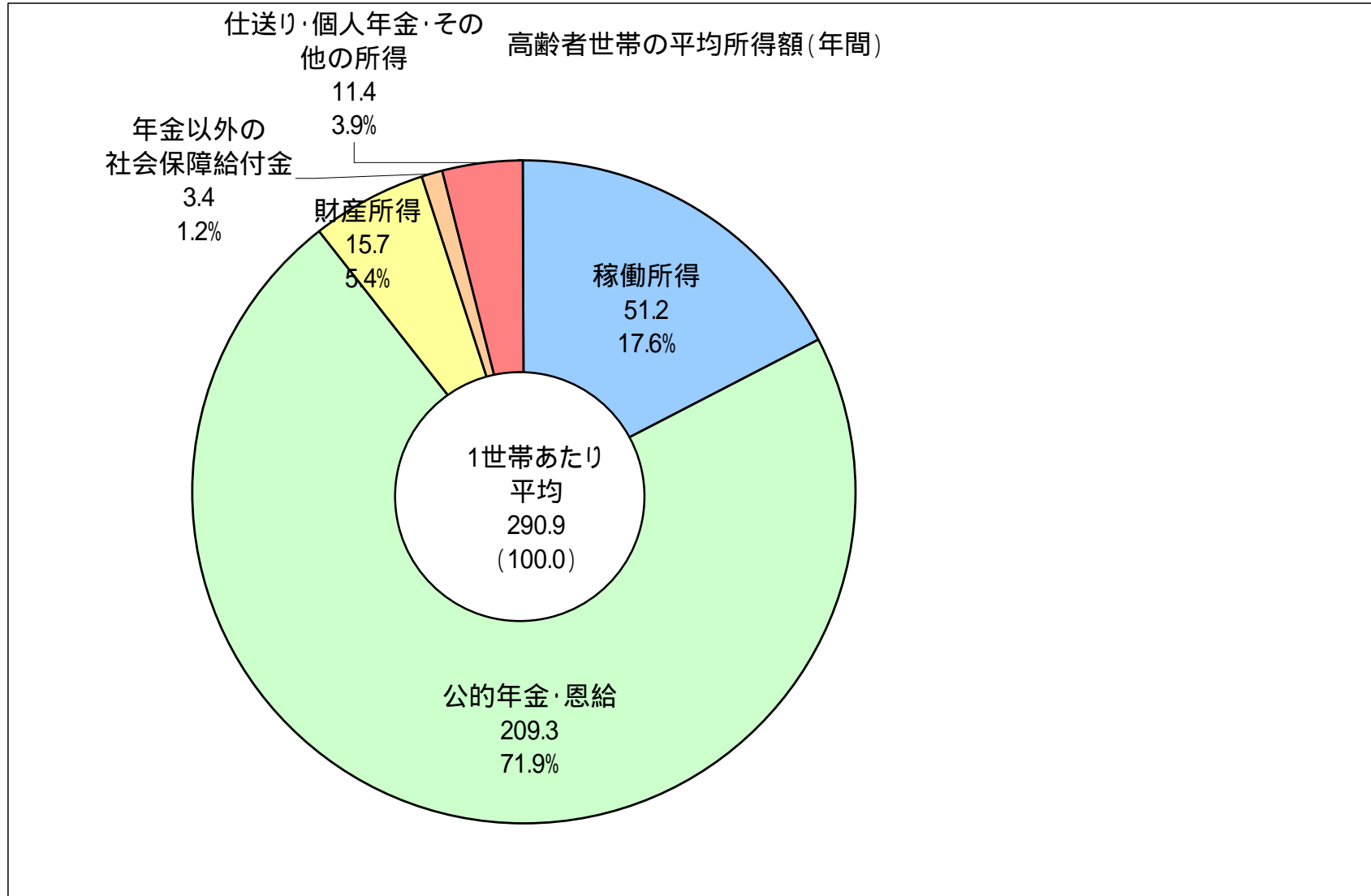
# 老 後

- 一般的に老後の生活費は夫婦二人でおよそ1億円
- 社会保障、会社の制度を引いた金額は自助努力で準備
- 国の保障制度である老齢年金は今後ますます給付が厳しい状況
- 今後更に制度が厳しくなる可能性があります。
- 将来の年金給付額については多少割り引いて。

# 高齢者世帯の平均所得額

調査時期平成：15年

高齢者世帯の1世帯あたりの平均所得額は290.9万円でそのうち「公的年金・恩給」が72%を占めている。

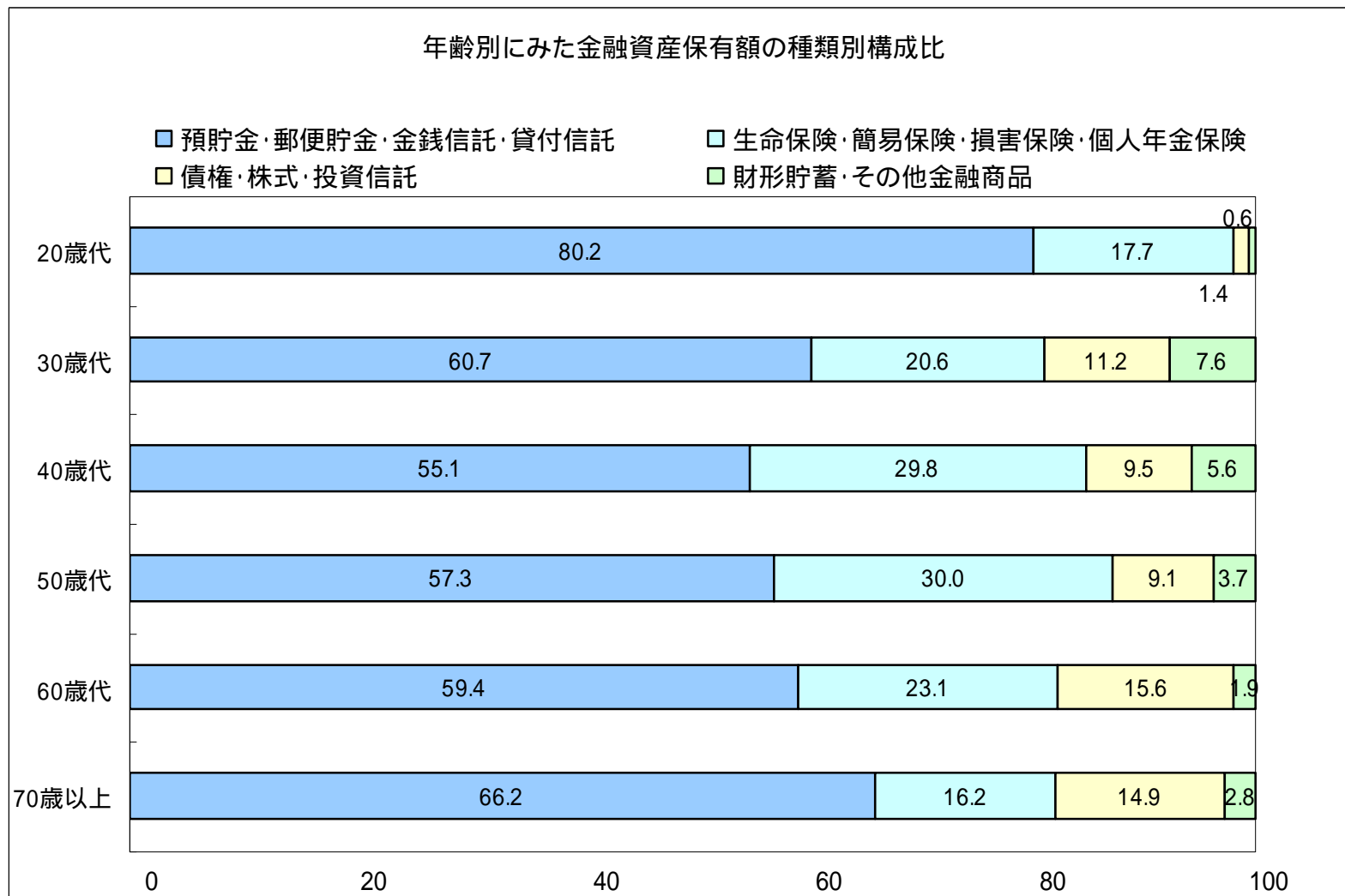


# 資金準備

- 資金を短期間で準備するのは容易ではありません。
- 老後までもうすぐと言う方は、予定の生活費を削減するか
- 60歳以降も働かれるか等収入を得る方法を考えましょう。
- まだ時間がある方は老後資金を積立てることをお勧めします。
- 具体的な準備方法として、リスクをとらず準備しようとお考えの方は個人年金保険等を活用して準備しましょう。
- より効率的にとお考えの方は投資商品等がよいでしょう。

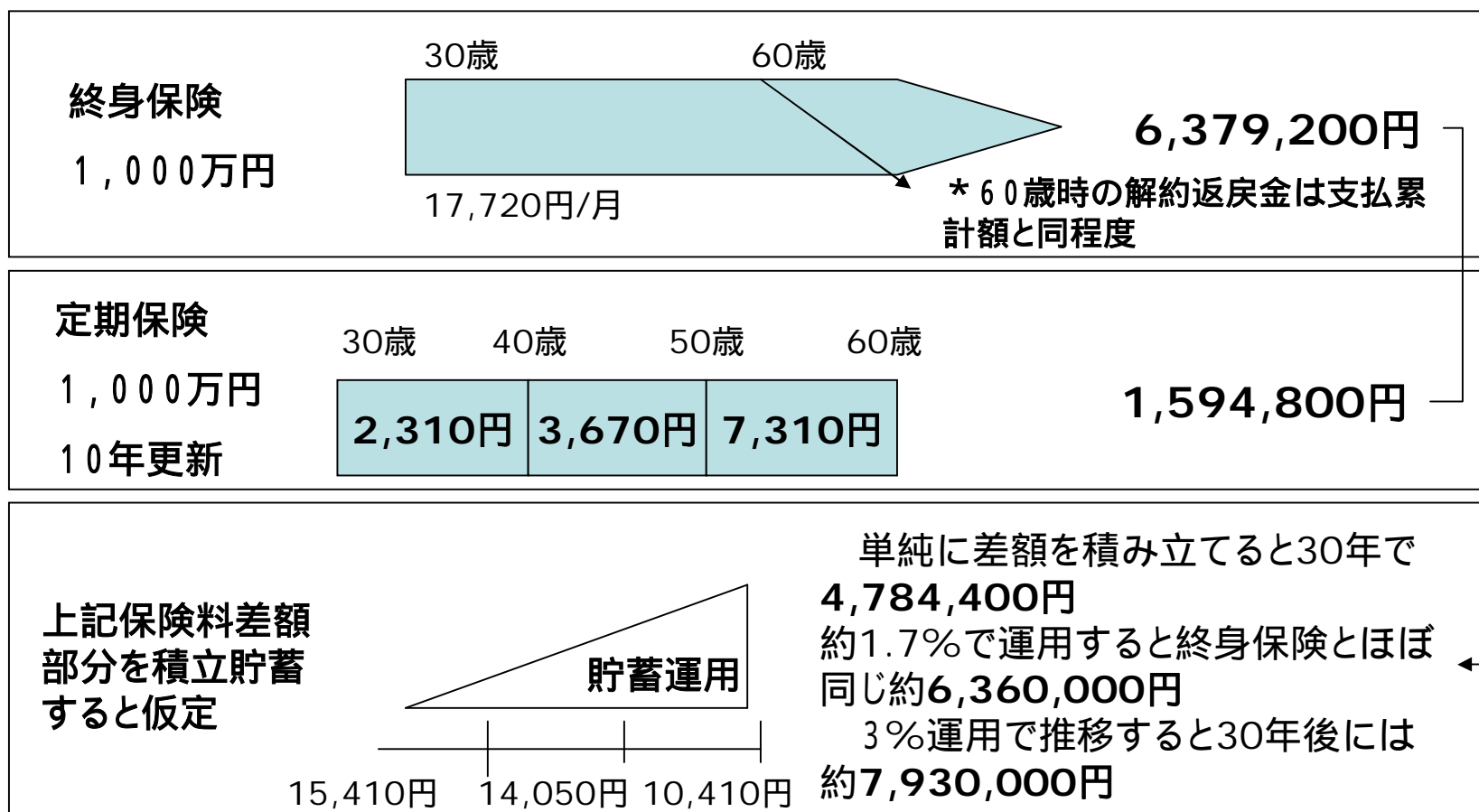
# 年齢別にみた金融資産保有額の種別構成比

調査時期：平成17年 40～50歳代では「生命保険・簡易保険・損害保険・個人年金保険」が占める割合が約3割と、他の年齢層より高くなっている。



# 終身保険との保険料差額分を他の金融商品で運用したほうが高い利回りが期待できます

## 60歳までの支払累計額



## 毎月3万円貯蓄すると？（複利運用した場合）

	元本	1%	3%	5%	8%
5年	<b>1,800,000</b>	<b>1,844,971</b>	<b>1,939,401</b>	<b>2,040,182</b>	<b>2,204,306</b>
10年	<b>3,600,000</b>	<b>3,784,496</b>	<b>4,192,243</b>	<b>4,658,468</b>	<b>5,488,381</b>
15年	<b>5,400,000</b>	<b>5,823,420</b>	<b>6,809,181</b>	<b>8,018,668</b>	<b>10,381,147</b>
20年	<b>7,200,000</b>	<b>7,966,837</b>	<b>9,849,060</b>	<b>12,331,010</b>	<b>17,670,612</b>
25年	<b>9,000,000</b>	<b>10,220,103</b>	<b>13,380,235</b>	<b>28,530,792</b>	<b>39,805,002</b>
30年	<b>10,800,000</b>	<b>12,588,846</b>	<b>17,482,107</b>	<b>24,967,759</b>	<b>44,710,783</b>

## 300万円を複利で運用した場合は？

	1%	3%	5%	8%
5年	<b>3,153,030</b>	<b>3,477,822</b>	<b>3,828,845</b>	<b>4,407,984</b>
10年	<b>3,313,866</b>	<b>4,031,749</b>	<b>4,886,684</b>	<b>6,476,775</b>
15年	<b>3,482,907</b>	<b>4,673,902</b>	<b>6,236,785</b>	<b>9,516,507</b>
20年	<b>3,660,570</b>	<b>5,418,334</b>	<b>7,959,893</b>	<b>13,982,871</b>
25年	<b>3,847,296</b>	<b>6,281,334</b>	<b>10,159,065</b>	<b>20,545,426</b>
30年	<b>4,043,547</b>	<b>7,281,787</b>	<b>12,965,827</b>	<b>30,187,971</b>

# 物損事故事例

(対物も無制限保障がお勧め)

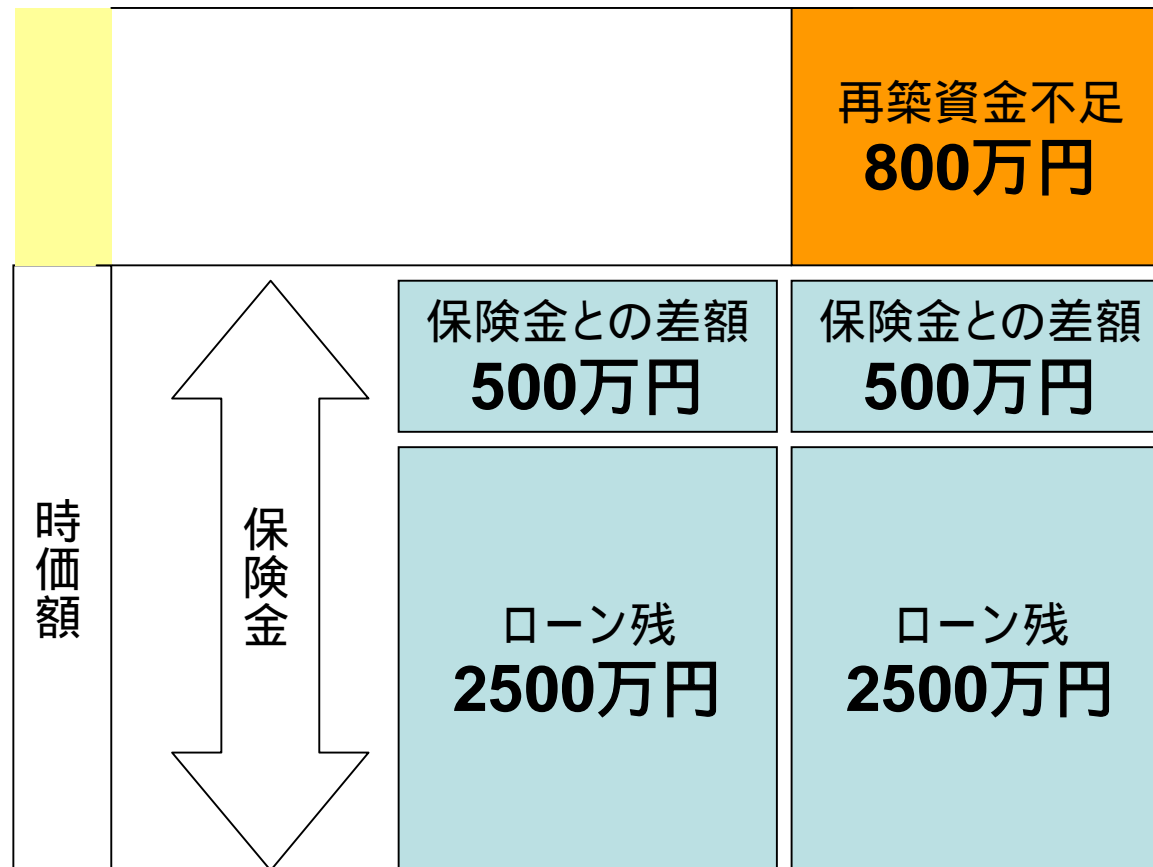
認定損害額	事 例
1億2036万円	車が踏切内で脱輪し電車と衝突、家に突っ込む
1億3450万円	センターラインを超えて対向車車線のトラックに衝突。両車が道路横のパチンコ店に突っ込む

# 建物の保険

- 住宅ローンを組む際に加入
- 減価償却に伴い、保険金額も自動的に減額

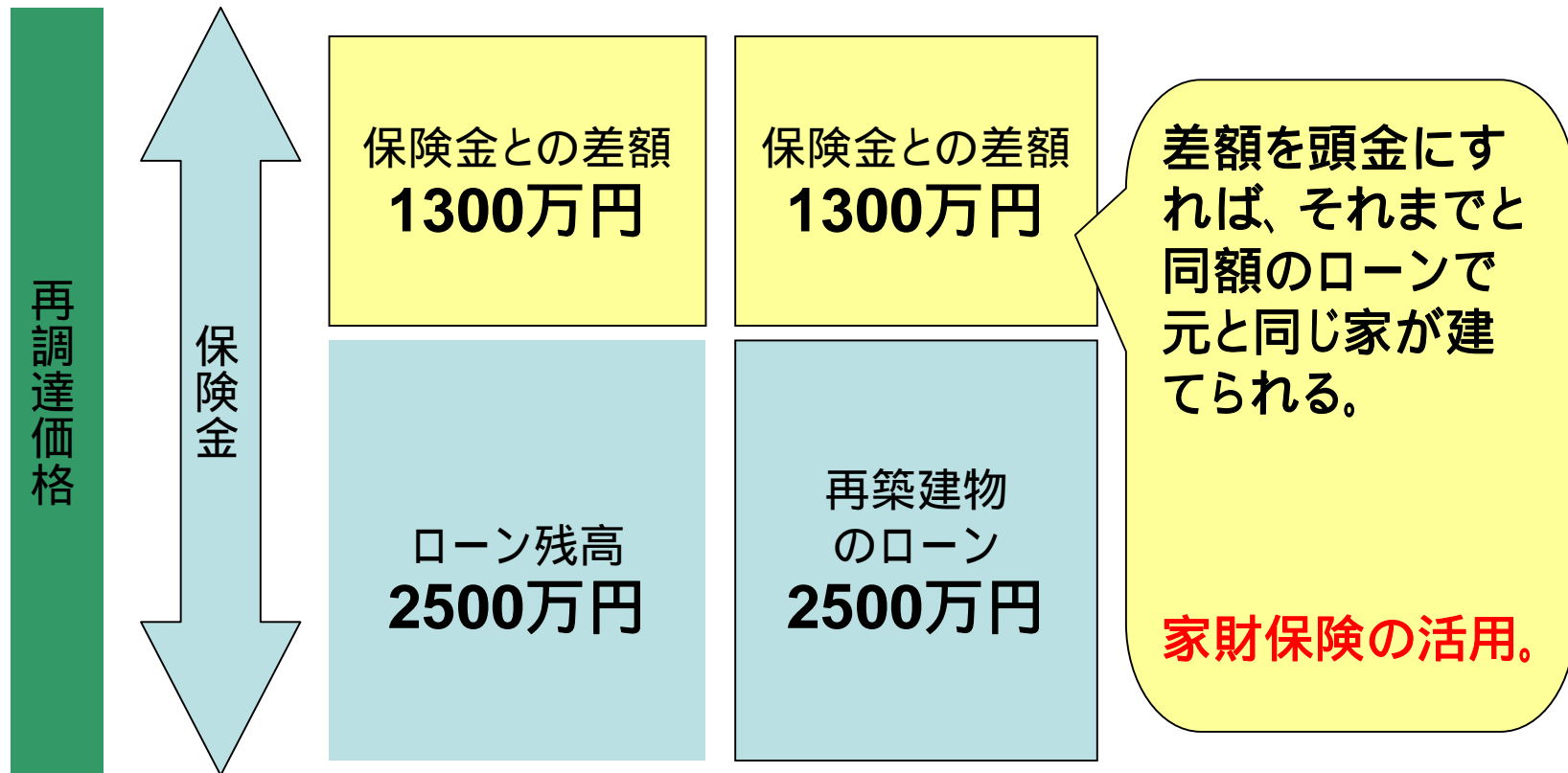
# 時価額

契約時3800万円



# 再調達価格

(現時点で家を購入した場合の価格)



# その他の保険例

- 家財保険
- 地震保険
- 賠償責任保険
- 傷害保険
- 介護保険